

## 調査結果概要(配偶者の海外勤務等を経験する女性の就労意向について)

### 1. はじめに

現代の駐妻の生活状況や就労への意向を明らかにすることを目的に、海外帯同中の仕事の状況や、働きたい理由、働く上でのネックになる要因などについてのアンケート調査を行った。

### 2. 調査結果

全体の約**95%**、駐妻キャリアnet会員については全員(100%)が働きたい気持ちが「ある」と回答した。一方、回答者の約3割が「仕事はしていない」と回答していることから、駐妻が海外で働くことには様々な障壁や制約が伴うと考えられる。

全回答者の約3分の2(うち駐妻キャリアnet会員については約8割)が仕事や学業等に従事しているが、無報酬の人も20%以上で、収入のある仕事をしている人は約**36%**であった。

駐妻が働きたい理由としては、「スキルの維持・向上のため」、「やりがいを得るため」との回答が多かった。背景には、これまで築いてきたキャリアを本当は帯同によって中断させたくない、帯同後のキャリアを考え自己研鑽を続けたいという思いや、帰国後の再就職不安等もあると考えられる。

駐妻の「働く」を妨げる要因としては、ビザ・労働関係規定、語学力、時差といった即時の解決が難しいもの以外に、「情報やロールモデルが不足している」、「働くために必要な手続きが分からない」、「配偶者の職場が帯同家族の就労自体を禁止している」、「育児との両立が日本以上に困難」といった、企業側の努力や配慮によって改善が見込まれるものも挙げられた。フリーコメント(本編記事に掲載)には切実な声が多数寄せられた。

(参考:回答者の状況)

- 仕事等ありの回答者に尋ねた「海外帯同中の仕事等に対する満足度」については、5段階中3以上と回答した人が77%であった。少なからずの駐妻たちが、制約のある中でも目標ややりがいを見つけ、家庭生活も大切にしながら前向きに研鑽に励んでいることが分かった。
- 仕事等なしの回答者に尋ねた「仕事等をしていない理由」としては、制度や規定の問題でそもそも働くことができない／働くことが難しい、育児に専念中との回答が多かった。
- 非常同の回答者に尋ねた「帯同を選択しなかった」理由としては、帯同による世帯収入の減少や、キャリアの中断、育児負担、物価差への懸念等が挙げられた。

### 3. 考察

現代の駐妻たちは、「キャリアの中断は不本意」、「働きたい」という気持ちを有していることも少なくない。しかしながら、帯同先では「そもそも就労が認められない」、「どうしたら就労できるのか分からない」という壁が立ちだかるばかりか、この壁を乗り越え働けたとしても、「働き続けるハードルも非常に高い」、「金銭的なメリットは得られない」という状況を受け入れなければならない。また、帯同によるキャリアのブランクには、世帯収入の減少以外に、「女性活躍が進む現代社会での再就職の難しさ」も付きまとう。

「海外にいながら日本の仕事をリモートで請け負う」ことも駐妻の選択肢のひとつとなりつつある今、企業や社会には、「駐妻は働かないもの」という価値観からの脱却、時代の変化に応じた制度の見直し、育児や家庭生活との両立が可能な働き方の普及が求められているのではないだろうか。

制度の壁により働くことが叶わないというのは、駐妻本人にとっても企業・社会にとっても損失でしかない。企業側での柔軟な制度運用や情報提供等(具体例: 帯同家族の就労に関する規定の見直し、帯同先における労働関係の規定に関する情報提供や税理士の紹介、保育や育児サービス・語学学習への補助等)が進むことを期待したい。